新 宿 区 名 誉 区 民

令和８年９月

ま　え　が　き

新宿区は、社会文化の興隆に功績があった方に対し、その功績をたたえ、区民の敬愛の対象として顕彰することを目的に、新宿区成立50周年を記念して、平成8年12月、新宿区名誉区民条例を制定しました。そして、これまでに21名の方々を名誉区民として顕彰させていただきました。

本書では、名誉区民の優れたご功績について紹介しています。本書を多くの方に手に取っていただき、名誉区民の魅力あふれる文化や芸術等の世界に触れ、名誉区民への親しみ、新宿への愛着を深めていただく一助となれば幸いです。

令和8年9月

目　　次

新 宿 区 名 誉 区 民

平成 9 年 3 月 15 日顕彰者 …… 1

平成 12 年 1 月 5 日顕彰者 …… 4

平成 14 年 3 月 15 日顕彰者 …… 5

平成 16 年 1 月 5 日顕彰者 …… 6

平成 19 年 3 月 15 日顕彰者 …… 8

平成 24 年 3 月 15 日顕彰者 …… 10

平成 25 年 3 月 23 日顕彰者 …… 11

平成 27 年 3 月 23 日顕彰者 …… 12

令和 2 年 1 月 5 日顕彰者 …… 13

令和 7 年 1 月 14 日顕彰者 …… 14

新 宿 区 名 誉 区 民 一 覧 …… 15

平成９年３月15日顕彰者

故　金　子　鷗　亭（かね　こ　おう　てい）　氏

（書家　下落合）

（平成13年11月５日逝去）

明治39年５月９日、北海道松前郡雨垂石村生まれ。

昭和７年、書の道を志し上京、新しい書の理念を探究し、芸術としての現代書の創造を提唱する。昭和27年から32回にわたり「全国戦没者追悼之標」を揮毫する。昭和41年、第９回日展に「丘壑寄懐抱」を出品し文部大臣賞を、翌年、日本芸術院賞を受賞。昭和48年、近代詩文書作家協会を設立し、理事長に就任。漢字と仮名との調和の中に、創意あふれる多様な芸術表現を目指し、近代詩文書運動の推進に情熱を傾ける。昭和62年、文化功労者として顕彰され、平成２年に文化勲章を受章。平成６年、東京都名誉都民として顕彰される。

故　小（こ）　平（だいら）　邦　彦（くに　ひこ）　氏

（数学者　中落合）

（平成９年７月26日逝去）

大正４年３月16日、東京府下淀橋町柏木生まれ。

昭和19年、東京帝国大学物理学科の助教授に就任。昭和24年、米国プリンストン高級研究所からの招待状により渡米。頭脳流出第１号となる。昭和29年、国際数学者会議において優れた業績を上げた数学者に贈呈される「フィールズ賞」を日本人として初めて受賞する。昭和32年、日本学士院賞受賞、同年、文化勲章を受章する。プリンストン大学、ハーバード大学等の教授を歴任。昭和40年、日本学士院会員となり、昭和42年帰国。東京大学数学科教授に復帰後、昭和46年には同大理学部長に就任。昭和62年、勲一等瑞宝章を受章。

故　田中　傳佐衛門（たなか　でんざえもん）　氏

（歌舞伎長唄囃子方　中町）
（平成 9 年 3 月 16 日逝去）

明治 40 年 7 月 17 日、東京市本郷区（現文京区）にて十世田中傳左衛門の二男として生まれる。

明治 45 年、父について歌舞伎囃子の修業を始める。大正 6 年に初舞台。大正 9 年、帝国劇場に出勤を始め、大正 10 年歌舞伎興行初舞台。昭和 7 年「長唄囃子研究所」を設立し、伝統ある歌舞伎囃子の正統の研究を進める。昭和 21 年十一世田中傳左衛門を襲名。昭和 39 年、「歌舞伎囃子協会」を設立、初代会長として歌舞伎囃子の保存、振興に尽力する。昭和 45 年紫綬褒章受章、昭和 49 年モービル音楽賞受賞。昭和 53 年には重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される。

故　富永直樹（とみながなおき）　氏

（彫塑作家　若葉）
（平成 18 年 4 月 11 日逝去）

大正 2 年 5 月 18 日、長崎県長崎市生まれ。

昭和 25 年の第 6 回日展出品作「殊勲者」で特選を受賞、以後 3 年連続で特選を受賞する。

昭和 47 年の改組第 3 回日展出品作「新風」では、日本芸術院賞を受賞する。昭和 49 年、日本芸術院会員となり、彫刻界に確固たる地位を確立する。また、郷土長崎市の芸術振興のため、長崎市立城山小学校に「原爆子ども記念碑（少年平和像）」等を制作したほか、平成 3 年には新宿区立漱石公園内に「夏目漱石像」を制作する。昭和 59 年、文化功労者として顕彰され、平成元年には文化勲章を受章する。

故　米川敏子（よねかわとしこ）　氏

（箏曲演奏家　杉並区）

（平成 17 年 12 月 13 日逝去）

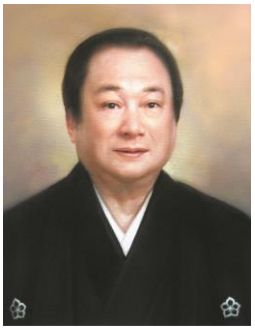
大正２年２月２日、兵庫県姫路市生まれ。

幼少から箏曲演奏家の父米川琴翁に生田流箏曲の手ほどきを受ける。古典演奏では深い作品解釈と的確で安定した演奏法により、深い境地を示す。

氏の演奏・作曲活動は、昭和 17 年の日本文化連盟コンクール第一位を始め、芸術祭奨励賞、芸術祭優秀賞等を受けるなど、高く評価されている。また氏は、社団法人三曲協会（現公益社団法人日本三曲協会）会長など関係団体の要職を務め、幅広く後進の指導、育成に尽力する。

平成８年、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定をうけ、平成 15 年には、文化功労者として顕彰される。

平成 12 年 1 月 5 日顕彰者



故 東音（とうおん） 宮田（みやた） 哲男（てつお） 氏

（長唄唄方　払方町）
（令和 7 年 11 月 30 日逝去）

昭和 9 年 3 月 25 日、北海道札幌市生まれ。

昭和 25 年稀音家六幸治に入門し、長唄の修業を始め、昭和 28 年、8 代目稀音家三郎助に師事し、さらに同年、東京芸術大学音楽部邦楽科に入学、山田抄太郎、西垣勇蔵に師事して研鑽を積む。卒業後は、同校の研究科に入学し、技芸の更なる錬磨とともに長唄の音楽的研究にも取り組む。研究科終了後は、活発な演奏活動を展開し、長唄唄方の代表的演奏家として活躍する。生来の美声に加えて、長年の研鑽により磨かれた技芸は、平成 10 年に重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定、平成 27 年に日本芸術院の会員に選定、令和 2 年に第 41 回松尾芸能大賞を受賞するなど数々の賞を受賞し、高く評価されている。令和 5 年には文化功労者として顕彰される。

また、東京芸術大学出身の長唄演奏家の集団である、長唄東音会の重要な一員として、後継者の養成にも尽力する。

故 西川（にしかわ） 扇蔵（せんぞう） 氏

（日本舞踊家　市谷台町）
（令和 5 年 7 月 14 日逝去）

昭和 3 年 6 月 22 日、東京市下谷区（現台東区）生まれ。

昭和 8 年に初舞台を踏み、7 歳で十世宗家西川扇藏を襲名し、宗家を継承する。その後、西川流の伝統技法の習得に努め、その表現力に磨きをかける。古典作品の的確な表現に加えて、新作の振り付けや上演でも実力を示し、その舞台成果は、平成 11 年に重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定、令和 3 年に文化功労者に顕彰されたほか、数々の賞を受賞し、高く評価されている。また、昭和 30 年には社団法人日本舞踊協会（現公益社団法人日本舞踊協会）理事、後に同常任理事に就任し、平成 2 年には財団法人日本舞踊振興財団（現公益財団法人日本舞踊振興財団）を設立し、理事長として日本舞踊の古典発掘・研究・保存・伝承や、海外活動等を通じての日本舞踊の国際化に尽力する。

平成 14 年 3 月 15 日顕彰者

鶴賀　若狭掾　氏（つるが　わかさのじょう）

（新内節浄瑠璃　神楽坂在住）

昭和 13 年 7 月 11 日東京市牛込区神楽坂生まれ。

幼少の頃より新内節の太夫（語り手）であった父の鶴賀伊勢太夫から、新内節浄瑠璃の手ほどきを受ける。

昭和 33 年に鶴賀伊勢路太夫を名乗り本格的に新内節太夫の活動を始める。昭和 48 年に鶴賀伊勢太夫を、平成 12 年に鶴賀若狭掾を襲名し 11 代目鶴賀流家元となる。

新内協会理事長に就任し、新内節の普及発展に尽力、後継者の育成に努める。

古典の発掘と新曲の創作で新内の魅力を拡げ、また、日々技芸の研鑽に努め、伝統的新内節浄瑠璃の技芸を高度に的確に体現し、かつ、これに精通し、平成 13 年、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。平成 17 年天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ天覧リサイタル開催。平成 21 年旭日小綬章を受章。

海外公演 40 数か国。平成 21 年度文化庁文化交流使。

六代　山勢　松韻　氏（やませ　しょういん）

（箏曲演奏家　市谷甲良町在住）

東京市牛込区生まれ。

実姉が母方の大伯父である三世山勢松韻家の養女となり、五代山勢松韻となっていたことから、幼少より箏、長唄、日本舞踊を学ぶ。その後、専門的研修を志し東京芸術大学に進み、中能島欣一教授に就いて学ぶ。専攻科修了後、昭和 39 年～40 年、アメリカワシントン大学客員講師として勤務の傍ら、アメリカ各地で演奏会を開催。在米中、日本音楽としての芸域を広げる必要を痛感し、帰国後、東京芸術大学大学院修了、定年で退官するまで同大学講師・客員教授を勤める。昭和 60 年からほぼ毎年、文化庁芸術祭参加または協賛演奏会を開催し、芸術祭賞を 3 回受賞、平成 8 年度文化庁芸術選奨文部大臣賞を受賞。平成 10 年紫綬褒章を受章。平成 13 年、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。

平成 14 年に日本芸術院賞を受賞し、平成 20 年に日本芸術院会員、平成 25 年に文化功労者に顕彰、令和 4 年に文化勲章を受章する。

平成 16 年 1 月 5 日顕彰者

鳥羽屋（とばや）　里長（りちょう）　氏

（歌舞伎音楽長唄唄方　矢来町在住）

昭和 11 年 2 月 4 日生まれ。

幼少のころから父の二世芳村五郎治に手ほどきを受け、昭和 26 年に杵屋栄之助に入門して初舞台を踏む。昭和 38 年、歌舞伎初出演、以後も研鑽に励み、昭和 49 年に鳥羽屋宗家を継承、七世鳥羽屋里長を襲名する。昭和 55 年には、第 34 回文化庁芸術祭優秀賞を受ける。平成 6 年から国立劇場伝統芸能伝承者養成「歌舞伎音楽（鳴物）」研修講師、平成 11 年同「歌舞伎音楽（長唄）」研修主任講師として、後継者の育成にも努める。平成 14 年、歌舞伎音楽長唄の技法を高度に体現し、かつ、これに精通しているとして、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。平成 16 年には旭日小綬章を受章、平成 29 年に日本芸術院賞を受賞、令和 4 年に文化功労者として顕彰される。また、社団法人長唄協会（現一般社団法人長唄協会）名誉顧問、社団法人伝統歌舞伎保存会（現一般社団法人伝統歌舞伎保存会）理事、文化庁認定の伝統長唄保存会理事長を務めており、この分野の振興にも尽力する。

故　三川（みかわ）　泉（いずみ）　氏

（能シテ方　四谷本塩町）

（平成 28 年 2 月 13 日逝去）

大正 11 年 2 月 1 日、宝生流能シテ方の三川寿水の四男として生まれる。

昭和 4 年に宝生流宗家の十七世宝生九郎重英（日本芸術院会員）に入門し、同年初舞台を踏む。

昭和 20 年からは野口兼資（日本芸術院会員）に師事して研鑽に励み、重要曲を次々に披き確かな力量を示す。繊細精妙で品格のある芸風、明確な謡に定評がある。昭和 56 年から 60 年まで、社団法人日本能楽会（現一般社団法人日本能楽会）理事に就任し、後継者の育成とこの分野の振興にも尽力する。平成 13 年には、宝生英雄追善能において「姨捨」を披き、宝生流能シテ方の技法を最高度に発揮し、高い評価を得る。

平成 15 年、能シテ方の技法を高度に体現し、かつ、これに精通しているとして、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。

故　やなせ　たかし　氏

（漫画家　片町）
（平成 25 年 10 月 13 日逝去）

大正 8 年 2 月 6 日、高知県生まれ。

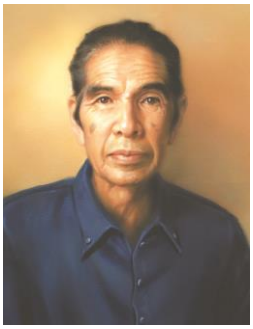
東京高等工芸学校（現千葉大学）卒業後、高知新聞社、三越百貨店宣伝部等を経て、昭和 28 年独立する。

その活動は多岐に渡り、絵本作家のほか、作詞家としては「手のひらを太陽に」など世に出し、雑誌編集者、詩人、作曲家、漫画家、脚本家、舞台演出家等として活躍する。

平成 25 年には、国民的キャラクターとして愛されている代表作「アンパンマン」の絵本出版 40 年、その人気を不動のものにしたアニメ「それいけ！アンパンマン」のテレビ放送開始 25 年、映画化 25 年、そして、やなせ氏の画業 60 年という節目の年を迎える。

社団法人日本漫画家協会（現公益社団法人日本漫画家協会）理事長、同協会会長、財団法人日本青少年文化センター（現公益財団法人日本青少年文化センター）理事を務める。

平成 19 年 3 月 15 日顕彰者

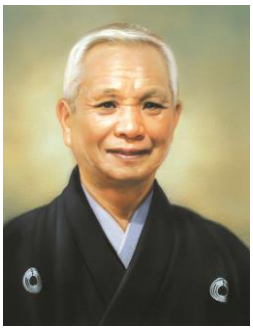


故　大山（おおやま）　忠作（ちゅうさく）　氏

（日本画家　中井）
（平成 21 年 2 月 19 日逝去）

大正 11 年 5 月 5 日、福島県二本松生まれ。

昭和 15 年東京美術学校（現東京芸術大学）日本画科に入学。昭和 18 年学徒出陣のため繰上げ卒業となる。復員後の昭和 21 年第 2 回日展へ「O 先生」を出展、初入選し、以後連続出展し文部大臣賞等を受賞、昭和 48 年には「五百羅漢」により日本芸術院賞を受賞した。昭和 61 年には日本芸術院会員となり、平成 4 年から平成 7 年までの間、社団法人日展（現公益社団法人日展）理事長を務める。平成 8 年勲三等瑞宝章を受章、平成 11 年には文化功労者として顕彰され、平成 18 年には文化勲章を受章する。人物画を中心に、宗教的作品、花鳥、風景と幅広い題材に取組み、写生を踏まえた平明で繊細な描写が独自の芸術的境地を示し、スケールの大きな画家として高く評価されている。



故　亀井（かめい）　忠雄（ただお）　氏

（能楽囃子方　中町）
（令和 5 年 6 月 3 日逝去）

昭和 16 年 12 月 1 日、葛野流大鼓方の亀井俊雄の二男として生まれる。

5 歳の頃より、父の手ほどきを受け、昭和 24 年、「熊野」で初舞台。その後、川崎九淵、吉見嘉樹に師事し、以後、着実に重要曲を披き、高度な技法を身につける。平成 6 年には、観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞、平成 10 年葛野流宗家預かりとなり、流儀の指導的立場にある。平成 14 年重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受け、平成 16 年には、紫綬褒章を受章する。その抜群の技量、高い芸術性をそなえた音色の美しさには定評がある。平成 24 年に旭日小綬章を受章し、同年葛野流家元となる。令和元年に日本芸術院賞・恩賜賞を受賞し、同年に日本芸術院の会員となる。

故　三遊亭　金翁　氏

（落語家　新宿七丁目）

（令和 4 年 8 月 27 日逝去）

昭和 4 年 3 月 19 日、東京都深川生まれ。

昭和 16 年、12 歳で三代目三遊亭金馬の門に入り、少年落語家・山遊亭金時の芸名でデビュー。昭和 20 年には二つ目に昇進し、三遊亭小金馬を襲名する。昭和 30 年、バラエティ番組の元祖といわれるＮＨＫのテレビ番組「お笑い三人組」に出演、明るい芸風で、テレビの草創期に大変な人気を博す。昭和 33 年に真打に昇進、昭和 42 年に四代目三遊亭金馬を襲名する。昭和 45 年には文化庁芸術祭にて優秀賞を受賞、平成 12 年には勲四等瑞宝章を受章する。登場人物のセリフ回しや仕草といった話芸の基本だけで、ストーリーを容易に楽しませる落語を演じ、文七元結、藪入り、淀五郎等の人情話を得意とする。一般社団法人日本演芸家連合名誉会長を務め、一般社団法人落語協会顧問を務める。

令和 2 年に三遊亭金翁を襲名。

平成 24 年 3 月 15 日顕彰者

故　草間（くさま）　彌生（やよい）　氏

（前衛芸術家・小説家　原町）
（令和 8 年 8 月 14 日逝去）

昭和 4 年長野県松本市生まれ。

10 歳の頃から水玉と網模様をモチーフに絵を描きはじめ、その後、画家を志して水彩、パステル、油彩などを使った幻想的な絵画を制作する。昭和 32 年に渡米し、網目や水玉の増殖するイメージを基にした巨大な平面作品、ソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った環境彫刻などを次々と発表し注目を集める。昭和 48 年に帰国後も国内外で美術作品の制作発表を続けながら小説、詩集も多数発表。

平成 21 年には、文化功労者に顕彰され、平成 28 年には文化勲章を受章する。

室瀬（むろせ）　和美（かずみ）　氏

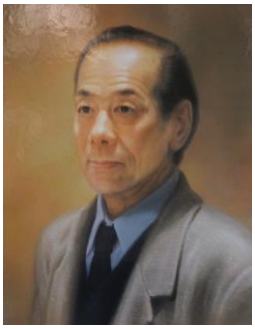
（漆芸家　下落合在住）

昭和 25 年東京都生まれ。

東京藝術大学大学院修士課程で田口善国に師事するとともに、漆芸作家であった父・室瀬春二、松田権六の指導を受け、蒔絵を中心とする伝統的な漆芸技法を幅広く習得する。さらに、国宝等の漆工品の保存修理及び復元模造にも携わりながら漆芸作家として創作活動を活発に展開し、蒔絵技法及びその表現について研究を深める。

平成 20 年には、蒔絵の制作技法を高度に体得し、かつ、これに精通しているとして、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定され、同年、紫綬褒章を受章。令和 3 年には旭日小綬章を受章、令和 6 年には選定保存技術の保持者（漆工品修理）に認定される。

平成 25 年 3 月 23 日顕彰者



故　高階秀爾（たかしなしゅうじ）氏

（美術評論・文化振興　中落合）
（令和 6 年 10 月 17 日逝去）

昭和 7 年東京都生まれ。

昭和 28 年東京大学教養学部教養学科を卒業後、同大学大学院在学中に、フランス政府招聘給費留学生として渡仏し、パリ大学附属美術研究所及びルーブル学院にて西洋美術史を専攻する。

帰国後、昭和 46 年から東京大学において助教授、教授を歴任し、優れた後進の育成に意を尽くすとともに、主としてイタリア・ルネッサンスからフランス近代に及ぶ西洋美術の研究や評論活動を行い、国際美術史学会など多くの国際シンポジウム・会議における研究発表等、大きな業績を残している。

国立西洋美術館長、大原美術館館長を務めるなど、豊かな知識と経験により美術館運営においても大きな実績を挙げ、さらに、文化審議会の初代会長をはじめとする数多くの公的な委員の任にもあたり、令和 2 年に日本藝術院長に就任するなど、我が国の文化行政にも大きく尽力する。

平成 17 年には文化功労者として顕彰され、平成 24 年には文化勲章を受章する。

新宿区においても文化芸術の振興に力を注ぎ、平成 20 年 11 月「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会」会長に就任し「新宿区文化芸術振興基本条例」の成立に尽力する。

平成 22 年 4 月「新宿区文化芸術振興会議」会長に就任。

平成 27 年 3 月 23 日顕彰者

故　柳家（やなぎや）　小三治（こさんじ）　氏

（古典落語　高田馬場）
（令和 3 年 10 月 7 日逝去）

昭和 14 年、東京都生まれ。

高校卒業後、昭和 34 年に五代目柳家小さんに入門し、柳家小たけの名で前座修業を始める。昭和 38 年には二つ目に昇進し，柳家さん治と改名しさらに精進を重ね、昭和 44 年には真打に昇進し、柳家一門の由緒ある名跡十代目柳家小三治を襲名する。

その後も日々その芸に磨きをかけ、同 51 年「小言念仏」の成果で日本放送演芸大賞、昭和 56 年「厩火事」、「もぐら泥」等の高座に対して芸術選奨文部大臣新人賞を受賞する。平成 16 年に芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど評価を高め、平成 17 年には紫綬褒章を受章する。平成 26 年には旭日小綬章の受章、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を受ける。

また、自らの弟子を養成するとともに、昭和 54 年から社団法人落語協会（現一般社団法人落語協会）理事、平成 22 年からは 2 期にわたり同協会会長、平成 26 年から同協会顧問の要職を務めており、斯界の発展や後進の指導・育成にも尽力する。

令和２年１月５日顕彰者

故　杵（きね）　屋（や）　勝（かつ）　国（くに）　氏

（長唄三味線　中井）

（令和５年２月９日逝去）

昭和 20 年 3 月 28 日福岡県みやま市生まれ。

昭和 26 年杵屋勝寿女に入門、昭和 30 年に杵屋寿太郎に師事して 14 歳で名取となり、昭和 35 年から杵勝派 7 世家元杵屋勝三郎に師事し、翌年には九州杵勝会における「多摩川」で初の立三味線を務める。高校２年生の折に上京し、杵屋勝三郎に本格的に師事したほか、昭和 38 年から東京藝術大学音楽学部邦楽科に入学し、山田抄太郎にも教えを受ける。杵勝派にとり重要な杵勝三伝（「船弁慶」「虎狩」「安達ヶ原」）など多くの古典曲の演奏に加え、作曲にも力量を発揮する。

また、門下から多くの演奏家を輩出するばかりでなく、一般財団法人杵勝会理事長の任にあって、後継者育成に尽力する。

令和元年に、長唄三味線の技法を正しく体得し、かつ、これに精通しているとともに、その技法を高度に体現しているとして、重要無形文化財「長唄三味線」（各個認定）保持者（人間国宝）に認定される。また、令和３年には旭日小綬章を受章する。

令和７年１月 14 日顕彰者

小林　研一郎　氏
（こばやし　けんいちろう）

（指揮者　下落合在住）

昭和 15 年福島県生まれ。

昭和 39 年に東京藝術大学作曲科を卒業、及び昭和 45 年に東京藝術大学指揮科を卒業する。

昭和 49 年、第１回ブダペスト国際指揮者コンクール第１位・特別賞を受賞。

平成 14 年プラハの春音楽祭では、東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮し、世界同時放映された。

ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団 、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ＮＨＫ交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団等の名だたるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。

また、ハンガリー政府から同国で最高位となるハンガリー国大十字功労勲章を受章するほか、国内では文化庁長官表彰、旭日中綬章、恩賜賞・日本芸術院賞など数々の賞を受賞し、国内外で高く評価されている。

平成 17 年には社会貢献を目的とした「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立。障がいがある奏者を含むオーケストラとして、特筆すべき、と評されている。

日本を代表する指揮者として、「炎のコバケン」の愛称で親しまれている。

新宿区名誉区民一覧

（令和８年９月）

顕彰年月日	氏　名	分　野	備　　考	
平成９年 ３月15日	故・金子　鷗亭 （かねこ　おうてい）	書家	平成２年文化勲章受章 平成６年名誉都民	平成13年11月５日逝去 （享年95歳）
	故・小平　邦彦 （こだいら　くにひこ）	数学者	昭和29年フィールズ賞受賞 昭和32年文化勲章受章 昭和62年勲一等瑞宝章受章	平成９年７月26日逝去 （享年82歳）
	故・田中傳佐衛門 （たなか でんざえもん）	歌舞伎長唄 囃子方	昭和53年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定	平成９年３月16日逝去 （享年89歳）
	故・富永　直樹 （とみなが　なおき）	彫塑作家	昭和59年文化功労者 平成元年文化勲章受章 夏目漱石像(漱石公園内)製作	平成18年４月11日逝去 （享年92歳）
	故・米川　敏子 （よねかわ　としこ）	箏曲演奏家	平成８年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成15年文化功労者	平成17年12月13日逝去 （享年92歳）
平成12年 １月５日	故・東音 宮田 哲男 （とうおん みやたてつお）	長唄唄方	平成10年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成12年紫綬褒章受章 平成26年旭日小綬章受章 令和５年文化功労者	令和７年11月30日逝去 （享年91歳）
	故・西川　扇藏 （にしかわ　せんぞう）	日本舞踊家	平成11年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 令和３年文化功労者	令和５年７月14日逝去 （享年95歳）
平成14年 ３月15日	鶴賀　若狭掾 （つるが わかさのじょう）	新内節浄瑠璃	平成13年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成21年旭日小綬章受章	
	山勢　松韻 （やませ しょういん）	箏曲演奏家	平成13年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成25年文化功労者 令和４年文化勲章受章	
平成16年 １月５日	鳥羽屋　里長 （とばや　りちょう）	歌舞伎音楽 長唄唄方	平成14年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成16年旭日小綬章受章 令和４年文化功労者	
	故・三川　泉 （みかわ　いずみ）	能シテ方	平成15年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定	平成28年２月13日逝去 （享年94歳）
	故・やなせ たかし	漫画家	「アンパンマン」絵本出版 テレビ・映画放映 元社団法人日本漫画家協会会長	平成25年10月13日逝去 （享年94歳）
平成19年 ３月15日	故・大山　忠作 （おおやま ちゅうさく）	日本画家	平成８年勲三等瑞宝章受章 平成18年文化勲章受章	平成21年２月19日逝去 （享年86歳）
	故・亀井　忠雄 （かめい　ただお）	能楽囃子方	平成14年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成16年紫綬褒章受章 平成24年旭日小綬章を受章	令和５年６月３日逝去 （享年81歳）
	故・三遊亭　金翁 （さんゆうてい きんおう）	落語家	平成12年勲四等瑞宝章受章 平成28年文化勲章受章	令和４年８月27日逝去 （享年93歳）

顕彰年月日	氏名	分　野	備　　考	
平成24年 3月15日	故・草間　彌生 （くさま　やよい）	前衛芸術家 小説家	平成21年文化功労者 平成28年文化勲章受章	令和8年8月14日逝去 （享年97歳）
	室　瀬　和　美 （むろせ　かずみ）	漆芸家	平成20年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 平成20年紫綬褒章受章 令和3年旭日小綬章受章 令和 6 年選定保存技術の保持者 （漆工品修理）認定	
平成25年 3月23日	故・高階　秀爾 （たかしな　しゅうじ）	美術評論 文化振興	平成17年文化功労者 平成24年文化勲章受章 元新宿区文化芸術振興会議会長	令和6年10月17日逝去 （享年92歳）
平成27年 3月23日	故・柳家　小三治 （やなぎや こさんじ）	古典落語	平成17年紫綬褒章受章 平成26年旭日小綬章受章 平成26年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定	令和3年10月7日逝去 （享年81歳）
令和2年 1月5日	故・杵屋　勝国 （きねや かつくに）	長唄三味線	令和元年重要無形文化財保持者 （人間国宝）認定 令和3年旭日小綬章受章	令和5年2月9日逝去 （享年77歳）
令和7年 1月14日	小　林　　研　一　郎 （こばやし けんいちろう）	指揮者	平成25年旭日中綬章受章 令和3年恩賜賞・日本芸術院賞	

新 宿 区 名 誉 区 民

令和８年９月発行

編集・発行
新宿区総務部総務課
新宿区歌舞伎町１－４―１
電　話　０３－３２０９－１１１１（代表）
ＦＡＸ　０３－３２０９－９９４７